

睡眠遠隔医療分科会
SIG Sleep Telemedicine
分科会長 千葉 伸太郎
太田睡眠科学センター

1. 分科会の目的

ICTを活用し、睡眠医療の診断及び治療全般のレベル向上を図り、僻地・海外を始めとする対面診療が困難な状況における遠隔医療のあり方について、多様な視点から検討および提言を行う。

2. 令和5（2023）年度活動実績と成果

2023年11月に開催された遠隔医療学会では、睡眠遠隔医療分科会として「これからのCPAPオンライン診療を考える」を議論するため、下記の発表を行った。

- ・神津悠「大学病院におけるCPAPオンライン診療の取り組み」
- ・白濱龍太郎「スリープクリニックにおける睡眠遠隔診療の実際と今後の展望」
- ・富田康弘「CPAPのオンライン診療における対面診療間隔の提案」
- ・吉嶺裕之「コロナ禍におけるオンライン診療の活用と課題」

2023年12月に睡眠時無呼吸症候群患者のCPAPをオンライン診療で管理する上での指針を、2024年1月に睡眠時無呼吸症候群患者のCPAPをオンライン診療で管理する上での指針 (<http://j-telemed-s.jp/jtta-j02/?p=2242>) を示した。

3. 令和6（2024）年度活動計画

睡眠時無呼吸症候群のCPAP療法における遠隔モニタリングが一般的に利用されるようになり、モニタリング情報を活用したオンライン診療が、情報通信機器を用いた疾病管理のひとつとして認識されるようになった。情報通信機器を用いた疾病管理という考え方が、今後は睡眠領域以外にも広がっていくであろうことを踏まえて、課題と問題点を整理し議論を進める必要がある。

一方で睡眠薬処方に係るオンライン診療については、診療において発生しうるリスクが問題視されるようになっており、適切な睡眠医療が行われるための議論が求められている。

適正な形でCPAPのオンライン診療を含めた睡眠遠隔医療が行われていくよう、分科会として情報発信を行う。多様な視点からの議論ができるようメンバーを加えたが、活発な討議を損なわぬよう10人程度のメンバーで分科会運営を継続する。